保原小学校

Hobara Elementary School

様々な情景を紡ぐ学校空間

A school building that weaves together various scenes of school life

受賞：2013年福島県建築文化賞 / 2013年キッズデザイン賞

所在地：福島県伊達市 / Date, Fukushima

用途：小学校　放課後児童クラブ / Primary school

構造設計：構造設計集団

設備設計：総合設備計画

音響設計：東京大学環境音響学研究室(佐久間哲哉研究室)

構造：RC造＋鉄骨造

規模：地上3階

敷地面積：25968.1

建築面積：8980.96

延べ床面積：13384.63

施工：佐藤・山崎・酒井東栄特定建設工事共同企業体

竣工：2012.2

撮影：北嶋俊治　kitajima toshiharu/archi photo

保原小学校は一学年4学級で800余人の児童を受け入れ、古くから保原地区の中心的存在であった。プログラムについて行政と市民と外部識者による検討委員会で念入りに検討されたあとプロポーザル方式によって設計者選定が行なわれた。本校の最大の特徴は、市のスクールコミュニティ構想の一貫として、講堂、市民ホームベース、放課後児童クラブなどを付帯していることである。これに加えて、教室エリアでは、二学年毎のまとまりに個性的な空間性と高い居住性を与え、児童の成長に合わせた学習空間となる様にした。更に、暖房費の負担が過大にならない配慮も併せて教室クラスターの独立性を比較的高くした。

配置計画では、冬の寒い季節風を防ぐ様に校庭の三辺を真っ白い棟で囲んでいる。また、北側に走る国道は一部シンボルロードとして整備されている重要な道なので、これに面する校舎の北面のデザインは、ロードサイド的環境のなかにヒューマンスケールの街並の形成をめざし、学校のなかの活動の様子が垣間見える様に開口を配している。この二つの形態的特徴は軒裏の塗色で強化した。

Hobara primary school has 800 pupils with four classes in each grade. After the committee of local government, citizens and experts discssed its program, the competition for appointing architect was held. Major feature of this school is an auditorium and a citizen’s base and a pupil club. On top of that, different spatial feature and comfortableness in the class room area of every two grade was established for different teaching demands for the growing pupils.

In the spatial formation of the site, three wings in white enclose the playground in a way to protect it from the cold wind in winter. The north façade was also well elaborated to create a favorable townscape with human scale in the road side environ.